



## 保護者の学び舎

第3回

ここでは、浜松市の福祉の現状や、身近な制度などについてお伝えしていきます。

### キャリア教育と関連づけた進路支援を



進路指導というと、高等部での指導に焦点が当てられ、進路選択、進路決定のための指導というイメージがあるかもしれませんが、それは進路指導の一端であり、そこに至る過程での、計画的、継続的な指導が進路指導の根幹と言えます。また、進路指導を効果的に進めるためには、保護者との連携、地域社会との連携、関係機関との連携がとも重要になってきます。

最近、よく耳にする「キャリア教育」ですが、「キャリア」とは、職業を指すものではなく、それぞれのライフステージにおいて、他者や社会のかかわりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、果たすべき役割であり、その役割は年齢とともに変化していき、ライフステージごとの役割を積み上げていくものです。役割は、一人一人の能力、取り巻く環境、健康状態等の様々なものによって違いがあります。一人一人の社会的・職業的自立に向け、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現する過程（「キャリア発達」）を促す教育が「キャリア教育」です。

キャリアを考えたときに、将来、目指すものだけではなく、今の子供たちがどのような役割をもち、その役割を果たすための能力や態度等を身に付けることが重要となります。特に障がいのある子供たちにとっては、小中高の各学校や学部、各学年で目指す児童生徒像や個々の指導目標に深く関わってきます。今、取り組んでいる目標や課題をより深め、確かなものにしていくことこそが、キャリア教育、進路指導になると考えられます。

また、今までの進路指導は、どちらかと言うと出口指導（卒業したらどこに行くか）に片寄りがちでした。本来の進路指導には、人生をどのように主体的に生きるかという「生き方指導」の意味を含んでいます。特に障がいのある子供の実態を考えたとき、「思いに沿った指導」を問題にする前に、思いを確かにしたり、強めたり、修正したりすることへの支援について考える「進路支援」が必要です。支援の重点を進路選択よりも、就労・就職とはどのようなものなのかについて学び、考えて判断する、その考えや気持ちを他者へ伝えることができるような力を育てることが大切だと考えます。障がいのある子供たちに対するキャリア教育では、子供一人一人の思いを確かにする「進路支援」を大切にしたいものです。



進路指導、進路支援は、小中高のキャリア発達の積み重ねの中で、キャリア教育として教育活動

全体を通して行われています。従って、進路指導は、学校が中心となって作成している個別の教育支援計画、個別の指導計画と直結したものになり、一人一人の生徒が卒業後、どのような生き方をしていくのか、どのような進路を選択していくのか、そのことと個別の教育支援計画の支援目標や個別の指導計画の指導目標とが連鎖していることが重要となります。本人、保護者が望む生活に基づいて、その実現のためにどのような支援が必要か、どのような指導が必要かの計画は正に進路指導そのものです。そして、現在、保護者の方々と学校と共有している支援計画、指導計画に基づいた日々の学校や家庭、地域での実践、その時々で身に付けた確かな力こそが卒業後の自立や社会参加につながっています。

その進路学習（キャリア教育）の考え方の一例を紹介します。

進路学習では、生徒自身が自分の生活に主体的に向き合い、周りの生徒や教員、地域の人々等と関わりながら、自分自身を高め、適切な『勤労観』、『職業観』を身に付けていくようにすることが大切です。『勤労観』は、日常的な生活の中での役割の理解や考え方、その役割を果たそうとする態度のことで、社会参加と自立に向けての基盤となる態度です。『職業観』は、職業についての理解や考え方、職業に就こうとする態度のことで、職業的な自立に必要な態度です。確かな『勤労観』が基盤となって『職業観』が培われます。例えば、「自分からやろうとする」、「自分のことは自分でできる」、「決められたことと与えられたことができる」などの基盤ができた上で社会参加と自立、就職・就労とつながっていくこととなります。低学年では、「日常生活動作と基本的な生活習慣に関する力」の育成、高学年になるにつれて『勤労観』や関わる「社会生活・家庭生活に主体的に参加し自らの役割を果たす力」の育成が大きくなり、中学部、高等部、社会への移行期では『職業観』に必要な「実際の働く力」や「職業的な自立に必要な力」の育成に重点が置かれることとなります。

このように、その時々個別の教育支援計画や個別の指導計画の支援目標や指導目標を大切にしながら、確かな力として身に付けていくことが、将来の進路選択や進路決定、進路目標の実現、自立や社会参加につながっていくものと考えます。今のお子様の姿を正しく理解して、周囲の方々の支援を有効に活用しながらその時々自己実現を図っていくことを大切にしていきたいものです。

（報告者 浜松特別支援学校 波多野俊哉）